

小学校体育

指導のポイント

単元で取り上げる指導内容に基づいて、単元の目標を設定し、それを実現するために適した学習活動を位置付け、課題解決に向けた学習過程を重視した単元を構想しましょう。

評価のポイント

評価規準に基づいて、どのような児童の動きや記述等があれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのか、運動領域・保健領域それぞれの具体的な児童の姿を想定しておくことが大切です。

1 体育科における「内容のまとめりごとの評価規準」

学習指導要領に示す「2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりして示したものです。

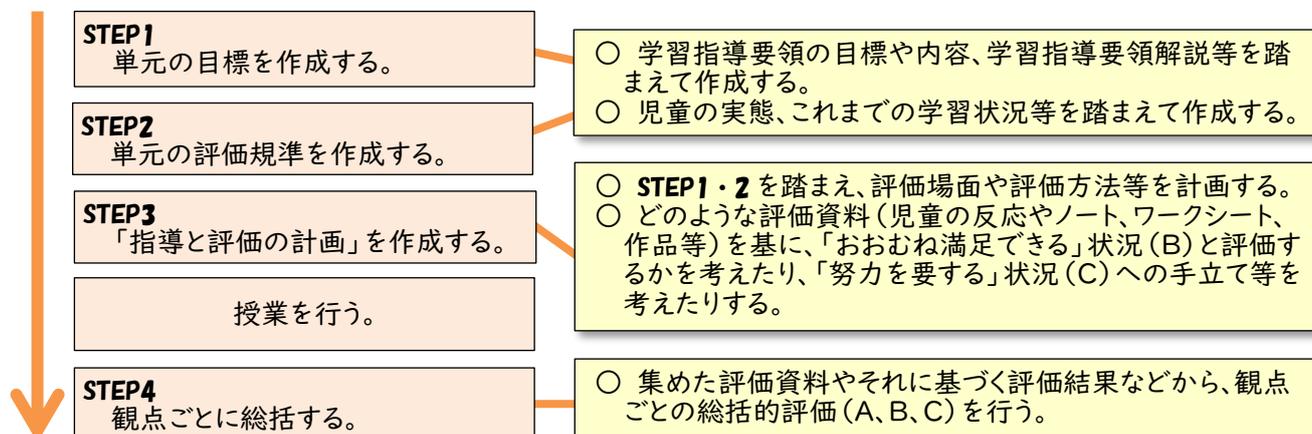
POINT

カリキュラム・マネジメントの視点から、低・中・高学年の各領域の全体像を俯瞰し、2 学年にわたっての指導によって、各領域の内容が身に付いた姿を「内容のまとめりごとの評価規準」として設定することで明らかにします。記載事項の文末を「～すること」から「～している」などの変換し作成します。



2 学習評価の進め方について

体育科においては、単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。その上で、以下のように進めることが考えられます。



3 単元における指導と評価の例

事例 第1学年及び第2学年「B 器械・器具を使つての運動遊び」
単元名 マットを使った運動遊び(第2学年)

POINT

単元の目標は、学習指導要領本文を参考に設定することができます。語尾は「～ことができるようにする」と表記します。

□単元の目標

- (1) マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようにする。
- (2) マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
- (3) マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。



□単元の評価規準

POINT

単元の評価規準を作成する前に、単元の目標から評価の視点を整理します。その際、児童の実態等を考慮しつつ、本文及び改善等通知の「観念の趣旨」をもとに作成します。語尾は、「～できる」(技能)、「～している」(知識、思考・判断)、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」、「～しようとしている」(主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外)と表記します。

「知識・技能」については、知識の評価規準と技能の評価規準に分けて設定します。「思考・判断・表現」については、思考・判断の評価規準と表現の評価規準に分けて設定します。「主体的に学習に取り組む態度」については、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の各項目に分けて設定します。



知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マットを使った運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。 ②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 ③手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らしたりして遊ぶことができる。	①道やジグザクなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいる。 ②腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。 ③友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。	①動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。 ③場の準備や後片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

POINT

「内容のまとまりの評価規準」と指導計画における児童の活動を考慮し、児童の学びの姿として上記のようなより具体化した評価規準を作成します。
 各観点とも複数個に細分した評価規準を想定しますが、順序性を示すものではないことに留意します。



□指導と評価の計画

時	1	2	3	4	5	6
0	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 感覚づくりの運動遊びの紹介	場の準備→準備運動(感覚づくりの運動遊び)			マットランドで楽しもう	
		ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり	ぴよんぴよんランド ・腕支持での川遊び ・腕支持での平均台遊び	さかさまランド ・跳び箱を使って ・肋木を使って	グループでマットランドの場を作って楽しむ。 作ったランドをグループ間で紹介し合っ楽しむ。	他のグループが作ったランドで楽しむ。 もっと楽しいランドになるよう工夫する。 動きのバリエーションを楽しむ。
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介				
		転がり方を組み合わせる。	川跳びからの腕立て横跳び越し	さかさまからのブリッジ		
45		振り返り→整理運動→片付け				
知		② 観察・ICT	③ 観察	① 観察	POINT 1時間につき1~2程度の評価の観点にするなど、無理のない計画を立てます。	
思			③ 観察・カード		① 観察	② 観察
態	④ 観察	③ 観察		① 観察・カード	② 観察・カード	

※知・・・「知識・技能」、思・・・「思考・判断・表現」、態・・・「主体的に学習に取り組む態度」

POINT

単元計画のうち、いつ、どの場面で、何をどのように見取るかの計画を立てます。
 指導計画の下に評価の計画を重ね合わせ、指導と評価の計画を作成します。



□毎時間の観点別評価の進め方

(1) 指導と評価の重点化

毎時間の指導においては、重点的に指導する内容を絞り指導することが想定されます。その際、重点的に指導する内容の指導と同時間内に評価を行う場合がありますが、技能や主体的に学習に取り組む態度のように、習得や活用の段階等を踏まえ一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして評価を行う場合も考えられます。

(2) 評価後の指導の継続と再評価の重要性

ある児童において、単元の前半に評価の機会を設定した項目がBまたはCであったものを単元の終盤までにAまたはBとなるよう、指導の充実を図ることが本来の評価の在り方であることから、単元の前半に評価したことをもってその観点の評価を確定することには留意が必要です。